

研究班番号【 79 】
カンジと片仮名

国語班：山口 陶子、前田 梨乃、福田 優羽、榎並 琳

Abstract

The purpose of this study is revealing that the effective way of using *Kanji* and *Katakana*. By using the corpus, We researched whether the nouns modified by each word were living things or inanimate things for three words. These words are "kawaii" written in kanji, "kawaii" written in katakana, "kirei" written in kanji, "kirei" written in katakana, "suteki" written in kanji, and "suteki" written in katakana. Then, we classified them from this perspective and investigated their percentages. The research shows that most words written in kanji modify living things, and most words written in katakana modify inanimate things. Therefore, this study concludes that we had better use kanji notation when the word modifies living things. Also, we had better use katakana notation when the word modifies inanimate things.

要約

本研究の目的は漢字・カタカナの効果的な表現方法を明らかにすることである。私達は、コーパスを用いて「可愛い」「カワイイ」、「綺麗」「キレイ」、「素敵」「ステキ」の3語について、それぞれの語が修飾する名詞が生物であるか、無生物であるかという観点で分類分けをし、その割合を調べた。その結果、漢字は生物を、カタカナは無生物を修飾することが多いとわかった。したがって、生物を修飾するときは漢字を用い、無生物を修飾するときはカタカナを用いることが良いと考えられる。

1. はじめに

日本語には漢字・ひらがな・カタカナの三種類の文字がある。私達はこの三種類の文字の使いわけの定義に興味を持った。先行研究ではひらがなは明確なデータが得られていなかったことから、本研究は、漢字とカタカナに絞り研究することにした。日常生活で漢字とカタカナの両方の使用が多い「かわいい」「きれい」「すてき」の三語を研究対象とした。実際の使用例から、三語の被修飾語が生物・無生物に分類できるのではないかと考え、その傾向を分析し、効果的な表現方法を推測する。

2. 研究手法

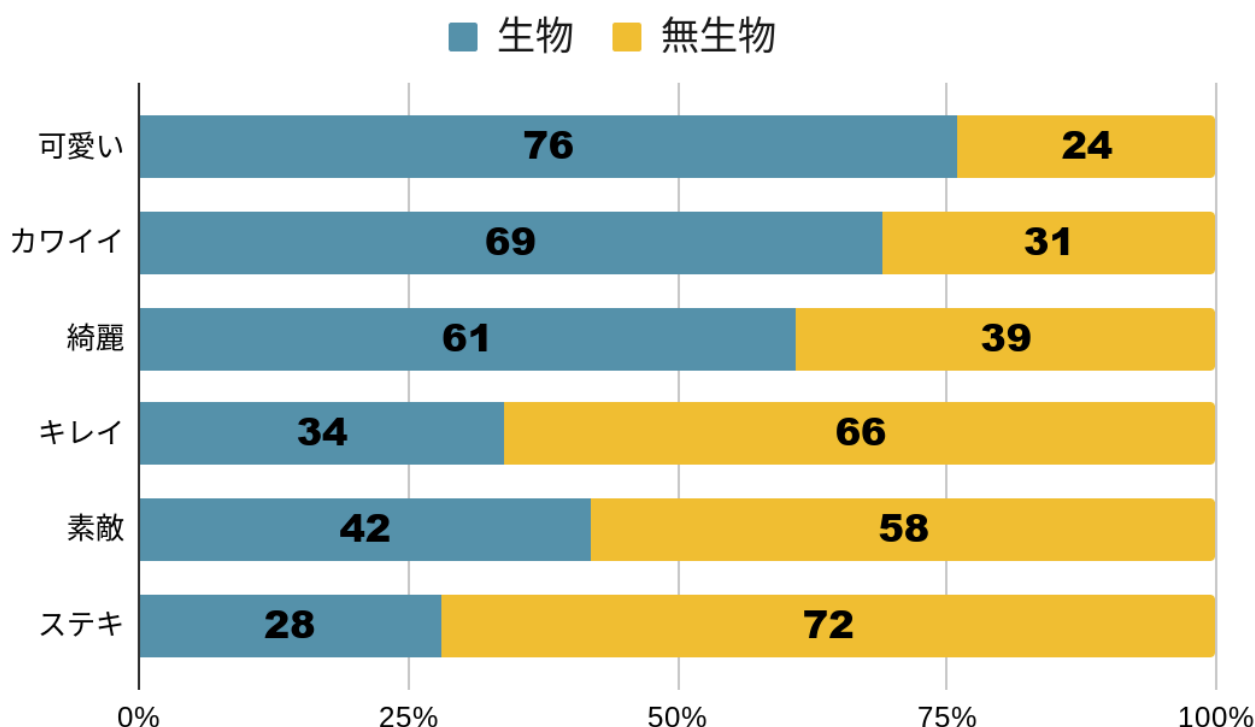
[条件]

- ①データはコーパス上の1971年～2008年までのもの
- ②データ数は200語に統一する
- ③生物には、動物や植物、また生物の一部から発されるものも含む(笑顔、手、歌声など)
無生物には、動物や植物以外のもの、また物事の内容も含む(雰囲気、出会いなど)
- ④データの信憑性を保証するため、研究する文献は個人のSNSやインターネット記事・広報誌を除いたもの。

《実験》

『KOTONOA現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言』を用いて「可愛い・カワイイ」「綺麗・キレイ」「素敵・ステキ」の3つの形容詞が修飾している名詞を生物・無生物に分類し、その割合を調べる。

3. 結果



研究対象の語が修飾する名詞の生物・無生物の割合

「可愛い」「カワイイ」においてはどちらも無生物、「綺麗」においては生物、「キレイ」においては無生物、「素敵」「ステキ」においてはどちらも生物を修飾する割合が高くなった。しかし、「カワイイ」に関しては、インターネット記事を除いた場合、29例しか得ることができなかった。それぞれの語の漢字表記とカタカナ表記を比較した際には、すべての語において、漢字は生物を、カタカナは無生物を修飾する割合が高いことがわかる。

4. 考察

以上の結果から、漢字が生物、カタカナが無生物を修飾する理由としては以下の二点が考えられる。一点目は、文字における「意味」と生物、無生物における「意志」が対応しているというものである。漢字は一文字ごとに意味を持ち、生物も一個体ごとに意志を持つ。同様に、カタカナは一文字ごとに意味は持たず、音のみを表し、無生物は意志を持たない。このように「意味」と「意志」の対応が修飾、被修飾の関係を形成しているのではないかと考えられる。二点目は、学術的レポートにおける生物名の表記方法に関係するというものである。一般的に、学術的な場面において生物名はカタカナで表記される。そのため、生物名を修飾する修飾語がカタカナだと読者に読みにくさを与えてしまう可能性がある。したがって、生物の修飾には漢字が多く用いられ、その他の単語の修飾にはカタカナが多用されるのではないかと考えられる。

個別の結果として、他の単語と異なり、カタカナ表記が生物を修飾する割合が漢字表記を上回った「素敵」においては、生物への修飾が84例、無生物への修飾が116例である。他の単語に比べると、僅差であることから、一概に生物、無生物の観点のみでの分類は難しいのではないかと考えられる。また、200語でデータを統一するところが、29例しか得られなかった「カワイイ」については、広報誌やインターネット記事を含めると305例得られた。このことから、約76%はインターネットや個人間でのやり取りに使用されていることが考えられる。また、今回使用した『KOTONOA現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言』は2008年までのデータであったため、当時の使用頻度によって結果が左右

された可能性も考えられる。

5. 結論

生物を修飾する際には、漢字を用い、無生物を修飾する際には、カタカナを用いることで聞き手や読み手に意図を効果的に伝えることができると考えられる。今回は生物、無生物に焦点を当てて分類したが、全ての単語が当てはまるわけではないことがわかった。したがって、今後の課題としては、他の分類方法や時代別の単語の使用の推移を研究する必要があると考えられる。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクト『KOTONOHA現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言』
奥垣内健(2010)『カタカナ表現語の意味についての考察:身体性とイメージの観点から』
藤田千夏(2012)『文字表記に関する研究ー日本語の文字の使い分け』